鹿児島市立桜丘中学校
令和６年２月２９日

第 11 号

「Ｈ３」ロケットの旅立ち

校長　上久保大介

令和６年２月１８日(日)９時２２分５５秒、**「Ｈ３」ロケット２号機**は激しい轟音と大量の白煙を残して、宇宙に飛び立っていきました。**初号機の失敗から約１年**で辿り着いた成功です。通常は再挑戦に３年かかると言われることを考えると、**技術者の皆さんの並々ならぬ努力**を伺い知ることができます。そんな「Ｈ３」ロケットを人に例えるなら、多くの人たちに教えられ、励まされ、育てられた自分の能力を信じ、ただひたすらに前を見つめて昇っていく若者のようでもありました。「Ｈ３」ロケットは飛び立った瞬間から**自分の力だけで様々なミッションをクリア**していかなければなりませんでした。そして、それらを見事にやってのけました。厳しい環境の中での行程は**孤独で、決して楽なものではなかった**はずですが、多くの人たちの期待を一身に受け、**立派に育っていった**のです。

思い返すと、令和２年２月２７日（木)、それは当時の安倍首相によって、何の前触れもなく突然伝えられました。そして、うるう日（２月２９日（土)）を挟んだ週明けの３月２日（月）から**全国一斉の臨時休校**が始まりました。それは長い長い**コロナ禍の始まり**でした。あれから４年が経ち、子供たちは**様々な苦渋**をなめさせられてきました。新しい挑戦には失敗はつきものですが、このコロナ禍だけは味わう必要はありませんでした。なのに歴史はこの子供たちに、**これまでにない試練**を与えました。特に不自由な生活を強いられた３年間は、多くの経験の機会を子供たちから奪いました。それでも、この子たちは知恵と工夫でたくましく育ってきました。誰かが言いました。「天は乗り越えられない試練は与えない。」と。

そして、今年もまた、残り３週間もしないうちに**３年生が卒業**していきます。多くの人に支えられ、育てられてきた「Ｈ３」ロケットと同じように、親や地域、先生たちに育てられた３年生がみんなに見守られながら旅立っていきます。旅立つまでには公立高校入試という最後の試練が待ち構えている人もいますが、そんな３年生に対し、これからも自分の力を信じ、様々な苦難を克服し、与えられたミッションをクリアしていってほしいと切に願ってやみません。

３年生の保護者の皆様には、今回が**最後の「学校だより」**となりました。稚拙な内容も多い文章ではありましたが、お読みいただいて**誠にありがとうございました。卒業生とその保護者の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。**